

看護職学習支援部門報告

堀 良子, 橋本明浩, 飯田智恵, 水澤久恵, 須藤陽子
新潟県立看護大学看護研究交流センター 看護職学習支援部門

1. 「どこでもカレッジ」公開講座の開催と受講者評価

開催日	テーマ	講師	受講者数, 評価・感想
7月10日(土) 13:00~15:00	快適性を考慮した おむつの使い方と 排泄ケア	岡崎静子 (株)花王 ヒューマ ンヘルスケア事業 ユニット シニアマネージャー	受講者:一般 30名(メイト2名), 教職員 10名, 学生 4名 計 44名 評価:①非常によかった…20名 ②良かった…10名 ③普通…2名 ④少し難しかった…0名 ⑤難しかった…0名
9月4日(土) 13:00~15:00	臨床看護における 感染防止	廣瀬千也子 日本看護協会 前理事	受講者:一般 23名(メイト2名), 教職員 9名, 学生 91名 計 123名 評価:①非常によかった…23名 ②良かった…52名 ③普通…8名 ④少し難しかった…4名 ⑤難しかった…4名
(第1回) 9月15日(木) 10:00~16:10 9月16日(金) 10:00~15:30 (第2回) 9月30日(木) 10:00~16:10 10月1日(金) 10:00~15:30	看護情報処理 セミナー	橋本明浩 新潟県立看護大学 教授 永吉雅人 新潟県立看護大学 助教	受講者:定員 11名募集 第1回 5名 第2回 4名 評価:①難しい…0名 ②やや難しい…2名 ③普通…7名 ④やや易しい…0名 ⑤易しい…0名 同僚にこのような講習会を勧めるか: ①勧める…9名 ②勧めない…0名
10月2日(土) 13:00~16:00	経管栄養・胃ろう 患者ケア (講義と演習)	上野 由美子 新潟県立中央病院 主任看護師 堀 良子, 飯田 智恵, 水澤久恵 須藤陽子 新潟県立看護大学	受講者:定員 40名募集 一般 38名(メイト2名) 評価:①非常によかった…15名 ②良かった…19名 ③普通…2名 ④少し難しかった…0名 ⑤難しかった…0名

<p>10月16日 (土) 13:00～15:00</p>	<p>看護師のための 対人コミュニケーション ヨン (講義と演習)</p>	<p>内藤哲雄 信州大学人文学部 教授</p>	<p>受講者: 一般 39 名(メイト 2 名), 学生 11 名 計 50 名 評価: ①非常に良かった…22 名 ②良かった…10 名 ③普通…2 名 ④少し難しかった…3 名 ⑤難しかった…0 名</p>
---------------------------------------	---	---------------------------------	---

平成 22 年度は上記 6 回の公開講座を実施した。

受講者の感想・意見は、「このような講義を受けさせて頂くことで、日々行っている業務の見直しをしなければならぬと痛感させられる良い機会になった」、「自分の行っていることの裏付け、エビデンスとなる内容であった」、「実際に行っていた部分で反省すべき点がたくさんあった」、「また知らない、為になる情報をたくさん知ることができた」、などであった。

また、演習を取り入れた公開講座は相対的に好評で、「実習もあり楽しく参加できた」、「もう少し時間があっても良かった」、「実習があったことで、具体的にイメージしやすかった」、「具体的な実習を取り入れてもらって、実践的でわかりやすかった」、「実際的な内容であったことから明日から生かすことが出来る」、などであった。

これらから、ただ講演を聞くより、演習を取り入れた実践につながる内容のニーズが高いことがわかり、次年度の計画に活かしたい。

2. 大学の授業公開とメイトの聴講

受講のあった科目は、臨床病態学Ⅰ、臨床病態学Ⅱ、形態機能学Ⅱ、看護技術論、成人看護学Ⅰ、成人看護学Ⅱ、成人看護学演習、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、精神看護学Ⅱであった。参加者は全部で 12 名(メイト登録者 80 名中)、全体を通じて同じ人が複数科目を聴講する傾向があった。

これまで受講や聴講は全て無料で実施されていたが、大学授業の聴講については、次年度から聴講制度の適用となり、聴講生として受け入れ有料で実施することとなった。それに伴って公開科目も現在より増やして実施する予定である。

3. 病院実務実習の実施

11月8～11日の2日間、2名のメイトが厚生連上越総合病院の2つの病棟で病院業務の見学と看護技術の体験実習を行った。参加者は病院実務から離れている看護師であり、「新しい処置や看護に触れて発見があった」、「自分の知識の遅れと乏しさを実感するとともに、それらを取り戻すよう勉強しつつ早く臨床に戻りたい」などの感想を寄せていた。

4. インターネットを利用した VTR などの視聴覚教材を活用した学習

今年度は人的・予算規模を縮小しての実施となったため、バーチャルコンテンツの制作は思うように進んでいない。しかし、次の図のように学習や視聴が今年度は格段に増加している。すなわち活用されていることを示している。ログインは登録したメイトや学内者に限られ、ドコカレホームページからアクセスし視聴する仕組みとなっている。

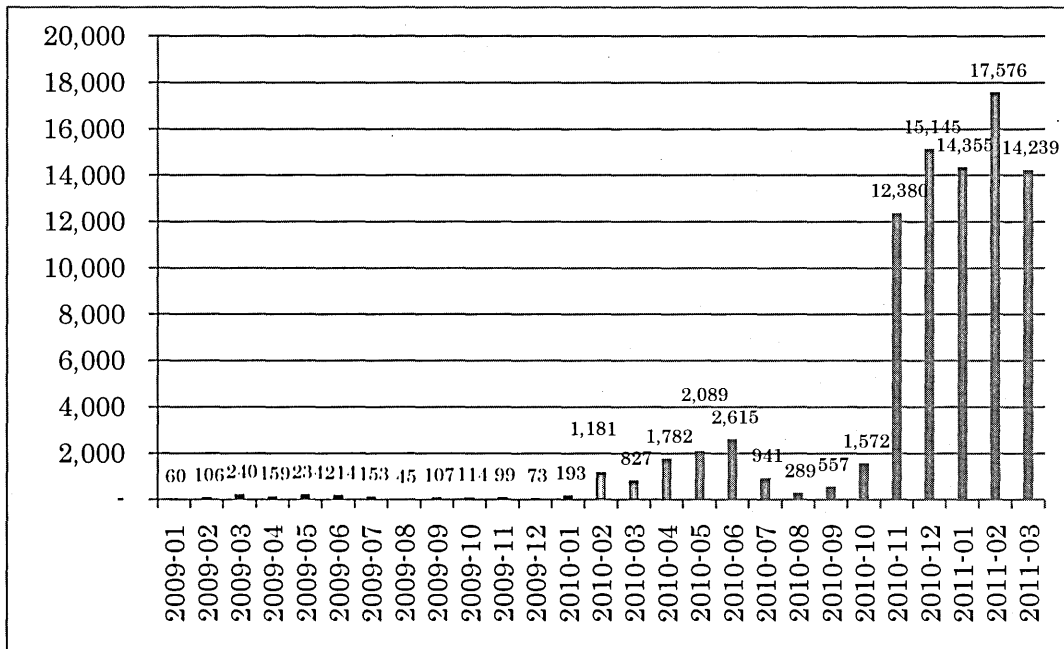


図1 月別ログイン回数の推移

いつでもどこでもインターネットさえ使える環境があれば自由に学習できる仕組みを作っているが、いつ視聴しているのか稼働集計をとると、次のように比較的夜間が多いが夜中や早朝なども多くアクセスされており、公開講座や大学授業の聴講などだけでは看護師が学習できる環境にないことがわかる。

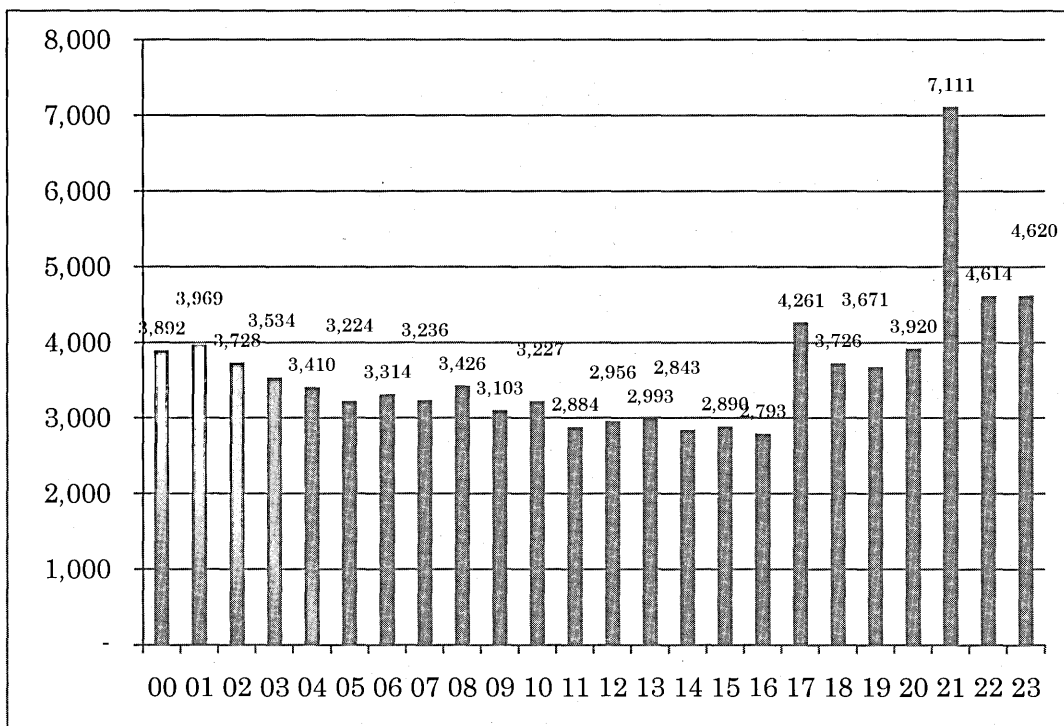


図2 利用時間別ログイン回数

5. まとめ

この看護職学習支援部門は、平成 19 年度～21 年度の文科省の委託事業として実施された「どこでもカレッジ」プロジェクトによる潜在看護師や現任看護師のリカレント学習を旨とした事業を継承して行っているものである。今年度から看護研究交流センターの事業として人的、予算的規模を縮小して実施することとなった。登録メイトは、16 名で現在の登録者は 82 名となっている。徐々に増加の傾向にある。公開講座は講演より演習などの実践的な内容にニーズが高かったことから、次年度は演習を入れた講座の計画をより強化したいと考える。また、看護職者のみでなく公開講座では、介護関係者の看護技術に対する学習ニーズや看護師以外の一般の参加者も多いことから、講演では一般参加者のレベルや関心に合わせた内容の構成も考える必要がある。また、情報処理セミナーを除いて 1 回 2 時間程度の企画が多いが、分散して何回も企画するより、1 回の時間を長くして関連したテーマをじっくり学習できる講座の計画も看護職者の休みをとっての受講等に対応できるであろう。さらに、病院実務実習は、潜在看護師の再就職を支援する企画であるが、今後は病院の看護師募集のニーズとのタイアップで考えることが良いと思われ、市内各病院に働きかけて参加者募集は大学で行い主催者は病院という形も考えたい。以上、地域と看護職の生涯教育に開かれた大学として今後も活動を推進していきたいと考える。